（1）　第26532号　2009年（平成21年）9月21日（月曜日）　十勝毎日新聞　（昭和27年8月1日第3種郵便物認可）　©十勝毎日新聞社2009　大正8年創刊　（日刊）

十勝毎日新聞
2009年（平成21年）
9月21日　月曜日
発行所：十勝毎日新聞社
〒080-8688
帯広市東1条南8丁目
電話（代表）0155-22-2121

あすの帯広
最高気温　18℃
最低気温　11℃
6～12時　12～18時

星屋株式会社　市内西5南17　☎22-8800　〈HPもご覧下さい〉
新築・分譲住宅は　星屋　検索
賃貸・不動産売買は　星屋不動産流通　検索

きょうの紙面

100歳、写真楽しむ　25

敬老の日　21日は「敬老の日」。7月に100歳を迎えた音更町在住の山本芳枝さんは、写真撮影が趣味。毎月、仲間と一緒にベストショットを狙う。

「秋ソバ」収穫に期待　23

芽室　芽室そば研究会が町内の農家に委託し、「秋ソバ」の栽培に取り組んでいる。収穫に成功すれば、12月の「帯広そばまつり」で手打ち提供へ。

どうなる十勝①
鳩山政権発足

景気・雇用

回復基調の持続、祈る中小

内需主導の効果は…

「（新車買い替えなど）補助金効果がなくなった後の反動が心配。やっと生産が立ち上がってきたところ。身構えている」

150人が働く制御機器メーカーの十勝葉山電器（幕別）。矢野義則工場長は、新政権の政策の行方を注視する。

昨年秋のリーマンショック後、自動車販売は急速に減少。部品納入先が減産した影響で、同社も今年始めにピーク時の4割まで生産が落ち込んだ。7月まで月2、3日間、工場を休業。パートを含む従業員は解雇せず、国の雇用調整助成金を使ってしのいできた。

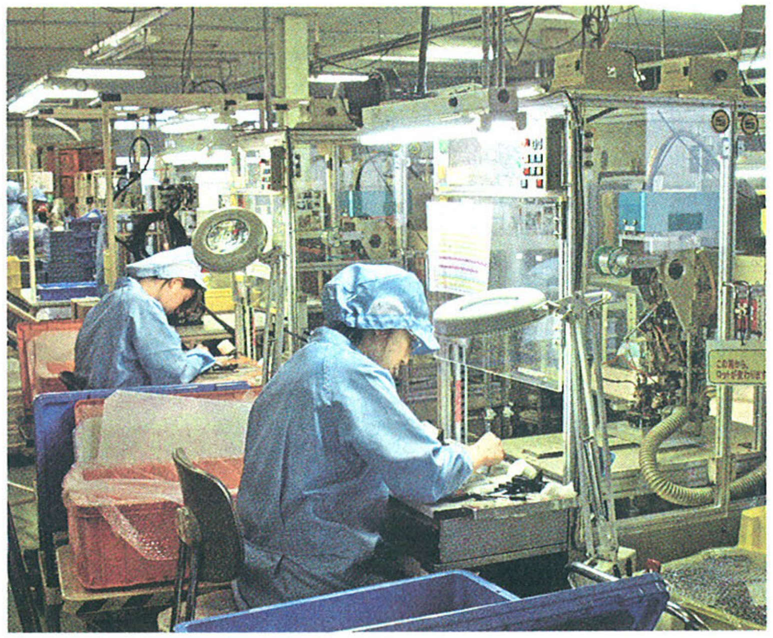
■育てる助成必要

ようやく生産が回復した矢先の政権交代。矢野さんは「自動車産業だけ補助が続くわけにはいかない。しかし一生懸命な中小企業を育てる助成金も必要」と語る。

日本銀行帯広事務所（河合博所長）は今月、景気判断を2カ月ぶりに引き上げた。自動車や家電販売など個人消費の一部に明るさが見え、雇用悪化に歯止めの兆しがあることが理由。需要増や所得増よりむしろ、政府の景気対策の効果が大きい。

河合所長は現状に関し「成長を上向かせる持続性はない」と慎重な見方を示す半面、新政権についても「マニフェストがどこまで、どう実現できるかがまだ見えない。何も言えないのが本音」と語る。

民主党は雇用・経済対策で中小企業支援を柱の1つに据えた。法人税を年11%に引き下げ、中小企業対策の予算は3倍に増額する意向だ。しかし、法人税を払う黒字企業は全体の3割ほどで効果は限定的との見方もある。



景気回復の兆しが見える中での政権交代。十勝管内の中小企業など経済界には政策転換に対する期待と不安が交錯する（十勝葉山電器）

■すそ野を広く…

帯広市内の企業からは「ありがたい話だが利益が出てからのこと」「セーフティーネット資金にも力を入れてほしい」と、すそ野の広い支援を求める声が上がる。

雇用面では最低賃金の全国平均1000円を目指す。北海道の678円（2009年度）からは大きなアップになる。連合十勝の竹鼻隆児事務局長は「最低賃金の底上げで金が回り景気の相乗効果が生まれる」と期待を寄せる。一方で経営側からは「1000円にすれば会社自体が続けられない」など、否定的な意見もくすぶる。

企業に共通するのは回復基調が政策転換でしぼむことへの懸念。帯広市の産業振興ビジョンに携わった東洋農機の

民主党政権の主な雇用・経済対策

- 中小企業向け法人税率を18%から11%に引き下げ
- 「中小企業いじめ防止法」「地域金融円滑化法」を制定する
- すべての労働者に適用する「全国最低賃金」を800円に
- 景気状況に配慮しつつ、最低賃金の全国平均1000円を目指す
- 原則として製造現場への派遣を禁止する

福祉車両

全国走る十勝の技術

人工呼吸器使用者用

奈良から「夢の北海道」

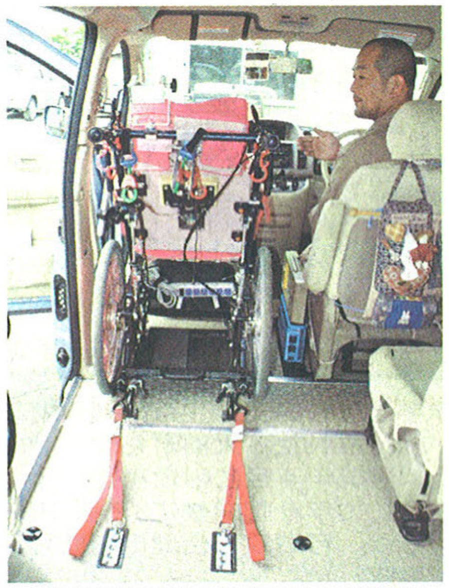
製造・イフにお礼の旅行

イフを訪れた大村志芳子さん（中央）と一家（後列右から母敦子さん、父哲司さん、姉真悠子さん）。前右が内藤社長、同左がイフのチーフエンジニア木戸口正次さん

福祉車両改造で道内唯一の専門業者「イフ」（帯広市西23北2、内藤憲孝社長）が十勝の障がい者らと築き上げてきた改造技術が全国で評価を得ている。人工呼吸器使用の障がい児の車いすを助手席部分に固定する改造を全国で初めて実施、2例目となる車を使い始めた奈良県在住の家族が20日、大型連休を利用して念願の北海道旅行に出掛けて同社を訪れた。「おかげで家族で楽しく外出できる」とバリアフリー技術を絶賛した。

内藤さんはモータースポーツのドラッグレースで2001年に全国制覇した改造技術を福祉に生かし、04年に同社を設立。十勝の障がい者と共同で個々の生活に即した車の改造を重ね、実績は約800台。07年には茨城県の医師とともに人工呼吸器使用の障がい者が助手席部分に乗れる車を全国で初めて実現した。

奈良県広陵町在住の医師大村哲司さん（51）は次女志芳子さん（11）＝小学6年＝が人工呼吸器を使い、母敦子さんが「娘を助手席部分に乗せて安心して運転したい」と5年ほど前からワゴン車の改造を数多くの業者に打診したが、技術がなくて断られてきた。知人の情報でイフを知り、昨年末からメールをやりとりして改造内容を決め、今年8月に施工。車いすは助手席や2列目の座席位置、その中間でも自在に安全に固定でき、人工呼吸器を作動させる電源設置、床のフラット化など細部にわたって改造した。



人工呼吸器付きの車いすを助手席などに固定できるように改造した大村さんのマイカー

改造車でこの夏には「初めて海水浴にも連れて行けた」と大村さん。今回は関西空港まで同車を使い、新千歳空港からレンタカーで来帯。レンタカーで使う電源・固定用具などはイフから事前に送ってもらい、夢の北海道旅行が実現した。敦子さんは「おかげで娘と一緒に出掛けられる」と感謝。内藤さんは「今度は冬の十勝に遊びに来て」と笑顔で迎えた。

（横田光俊）